

「溶剤トップ硬化促進剤 X5」説明書

1. はじめに

「溶剤系トップ硬化促進剤 X5」は、各種溶剤系トップコートに施工現場で添加し、硬化を促進させる硬化促進剤(硬化触媒)です。

2. 特徴

- ①. 添加量により、硬化時間が短縮できます
- ②. 階段、解放廊下等工期が限られている現場で、工期の短縮が図れます
- ③. 降雨、結露、夜露による影響(白化)を抑制できます

3. 使用可能なトップコート

プルーフロン溶剤系トップコート(GRトップ、GRトップ遮熱、GRトップフッ素、GRトップ艶消しT、GRトップエコ)
ユータック溶剤系トップコート(R、S、FT)

4. 荷姿・消防法

入目	荷姿	消防法
1.0kg	1.2L 角缶	第四類第一石油類 危険等級Ⅱ

5. 添加量と可使時間(ポットライフ)

各気温における A 液と B 液混合塗料に対しての触媒添加量と可使時間(ポットライフ)は表1の通りです。
表中の()内の時間は軽歩行可能時間(白化が発生し難くなる時間)を表しています。

表1.各気温における硬化触媒添加量と可使時間(軽歩行可能時間)の関係

気温 促進剤添加量	5℃	10℃	15℃	20℃	25℃
0%	12 時間 (24 時間)	10 時間 (16 時間)	8 時間 (9 時間)	6 時間 (7 時間)	4 時間 (6 時間)
0.2%	10 時間 (16 時間)	8 時間 (9 時間)	6 時間 (7 時間)	4 時間 (5 時間)	3.5 時間 (5 時間)
0.4%	8 時間 (9 時間)	7 時間 (8 時間)	5 時間 (6 時間)	3.5 時間 (4.5 時間)	3 時間 (4 時間)
0.6%	6 時間 (7 時間)	5 時間 (6 時間)	3.5 時間 (5 時間)	3 時間 (4 時間)	—
0.8%	5 時間 (6 時間)	4 時間 (5 時間)	3 時間 (4 時間)	—	—
1.0%	4 時間 (5 時間)	3 時間 (4 時間)	—	—	—
1.2%	3 時間 (4 時間)	—	—	—	—

太文字: 各気温での推奨添加量

※ 200g/m² 塗布した場合の軽歩行可能時間(白化抑制)ですが、実際の施工現場において、下地温度・風量・湿度・希釈量・下層の硬化状態・塗料の溜まりなどの要因により大幅に前後するため参考値として下さい。

6. 添加量の計算

・18kg セットの硬化促進剤添加量

表2は、18kg セットの硬化促進剤の添加量です。

添加量の目安としてご利用いただき、前後で量りやすい数値に調整して硬化促進剤を投入ください。

表2. 18kg セットにおける硬化促進剤の添加量

硬化促進剤の量	18kg セット	
	重量	容量
0.2%	36g	39 ml
0.4%	72g	78 ml
0.6%	108g	117 ml
0.8%	144g	157 ml
1.0%	180g	196 ml
1.2%	216g	235 ml

・必要な添加量の重量と容量を求める

次の□に混合塗料の重さと硬化促進剤の添加量を入れて計算すると、添加に必要な硬化促進剤の重量、容量が求められます。

①必要な添加量の重量を求める

$$\boxed{} \text{ (kg)} \times \boxed{} \text{ (\%)} \times 10 = \boxed{} \text{ g}$$

混合塗料の重さ 硬化促進剤の添加量

(例) 18kg セット、添加量 0.8% の場合

$$\boxed{18} \text{ kg} \times \boxed{0.8} \text{ \%} \times 10 = \boxed{144} \text{ g}$$

必要な硬化促進剤の重さは 144g となる。

②必要な添加量の容量を求める

$$\boxed{} \text{ g} \div 0.92 = \boxed{} \text{ ml(cc)}$$

硬化促進剤の密度

(例) 必要な硬化促進剤の重さが 144g の場合

$$\boxed{144} \text{ g} \div 0.92 = \boxed{157} \text{ ml(cc)}$$

必要な硬化促進剤の重さは 157ml(cc) となる。